

桑都の歴史を『絵本』に ～ 継承と創造が織りなすまち、未来へつむぐ ～

Turning the History of Mulberry Capital into a Picture Book
～ Weaving a City of Tradition and Innovation into the Future ～

グループ名：WEAVE（ウィーヴ）
市川桃子 川淵未来 中島弘 廣瀬幸輝
指導教員 中山雅司
創価大学 法学部 法律学科 中山ゼミナール

2022年に八王子市の歴史を基に作成された「桑都物語」が日本遺産に認定、翌年には博物館が設立された。だが、依然として八王子市の歴史文化および桑都物語は認知されていない。「桑都」としてのユニークな八王子市の歴史に誰もが気軽に触れ、誇りと愛着を育むことのできる「絵本」について提案を行う。

キーワード：桑都物語、歴史、継承、絵本、ふるさと

1. はじめに

八王子市は、戦国時代に北条氏照が居城を築いたことを起源に、養蚕業や絹産業を背景に栄えた「桑都」としての歴史文化を有する街である。今や地元住民のみならず、通勤・通学者や留学生など、中・長期的に八王子市を訪れる人も少なくない。しかし、なじみのある八王子市の歴史について語ることのできる人はどれほどいるであろうか。「慣れ親しんだ街だが、歴史についてはあまり知らない」という人もいるのではないか。本稿では、そのような問題意識から、八王子市に暮らすすべての人々が、同市の歴史文化に関心を抱き、未来の世代へ語り紡ぐことを目的とする「桑都絵本」の出版を提案する。

2. 現状分析

(1) 地元住民の愛着度

2024年度に株式会社リクルートが行った「SUUMO 住みたい街ランキング 2024 首都圏版」は、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県に在住している20～49歳の男女9,335人を対象に、住みたい自治体を調査したものである。調査結果である「[首都圏(1都4県)]住みたい自治体ランキング」において、八王子市は46位にランクインしている。これは、居住都県別でみると、東京都の中で

は23位という順位になる。2023年の19位と比較すると若干下落しているものの、過去6年間は19位～29位の間を推移している。近隣都市の武蔵野市(13位)や立川市(15位)、三鷹市(20位)と比較すると、八王子市で生活する地元住民からの高い愛着があるとは言い難い現状にある。

(2) 歴史文化への関心・知名度

八王子市が有する29件の指定文化財によって構成された物語である「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」が、2020年に文化庁の指定する「日本遺産」に認定された。それを受け、翌2021年6月には八王子市の歴史文化を紹介する目的で、桑都日本文化センター八王子博物館(はちはく)が設立された。博物館の来場者数は、2021年に31,646人、2022年に38,696人と増加している(八王子市 2023)。しかし、同年次における八王子市の総人口(2021年に561,828人、2022年に561,758人)と比較すると、総人口の5.6%～6.8%の来場にとどまる(八王子市 2023)。なお、博物館の来場者数は市外からの来場者数も含むため、実際には上記の割合よりも低いことが予想される。以上より、依然として八王子市内における歴史文化への関心および桑都物語の知名度は高いとは言い難い現状にある。

(3) 桑都物語の認知度

日本文化遺産に認定された「桑都物語」の認知が十分になされていない課題も挙げられる。日本遺産の調査、運営を行うフュートゥラディションワオが2018年に行った「日本遺産と旅行に関する意識調査」では、日本遺産の認知度は29.4%であった。そのうち、「実際に訪れたことがある」と回答した人は12.6%であった。一方で、「日本遺産」に感じる価値について、回答者の30.4%が「地元や故郷を大切にしたいという気持ちが強まる」と答えた。日本遺産が地域住民の誇りやアイデンティティ形成につながる可能性も示唆している。(後藤2018)

以上の3つの現状を踏まえ、八王子市の強みである「桑都」の歴史に、誰もが気軽に触れることができ、それを契機に八王子市の歴史文化に誇りと愛着を感じ、次世代がその歴史文化を継承するという循環を創出できる施策が必要であると考え。

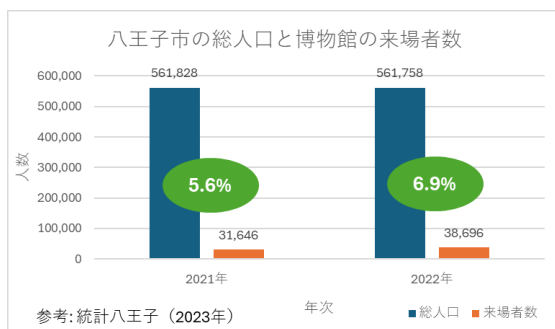


図1 八王子市の総人口と博物館の来場者数

3. 提案

私たちは八王子の歴史・文化継承のために「桑都絵本」の出版を提案する。具体的には、「桑都物語」の内容を簡易化・明瞭化し、読者層に合わせて2種類の絵本を製作する。読者層は「児童向け」と「中高生以上」で大きく分け、読み手のレベルに合ったストーリーを構想する。いずれの絵本も「桑都物語」をベースとし、ストーリーそのものは変わらない。出版後は、市内外における学術機関や観光施設、図書館、書店等で多くの人に手に取ってもらいたい。ただ、本施策の主要なターゲットは、次代を担う子供をはじめとする地元住民である。特に、子供に対する無形文化財の継承という点は、「桑都物

語」推進協議会(2024)でも言及されている。市内の文化財を未来へと継承していくためには、地元住民が、ふるさとの歴史文化に対し、深い愛着と誇りを持つことが重要である。本提案が、八王子市の持続的な歴史文化の継承に少しでも寄与すれば幸いである。ペーパーレス化が進む時代に、あえて紙書籍を出版する意義としては、デジタル機器の操作が得意・不得意にかかわらず、1人でも多くの人に読んでもらいたいという意図がある。また、手元にある本を通して、八王子市の歴史文化に肌で触れ、少しでも身近なものとして感じてもらうという思いも込められている。

4. 展望・まとめ

上記の提案に加え、将来はIT技術を交え、児童がより親しみやすい「飛び出すAR絵本」の作成や外国語版・点字版などの出版も行い、より多くの人を巻き込む施策へ発展させていきたい。

「桑の都」として栄えた特有の歴史を有する八王子市は、今後もさらなる成長が期待される。「桑都絵本」が、同市の未来に残る一冊になれば幸いである。

5. 参考文献

- 八王子市. (2023). 統計八王子 令和5年度版. https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/002/006/tokehachihkakunen/toukeihachiojih05/p033616_d/fil/toukeihachiouji_R5.pdf
- 後藤文昭. (2018). 日本遺産、関心度は高いが認知度は約3割. <https://www.ryoko-net.co.jp/?p=34871>
- 文化庁. (2020). 霊気満山 高尾山 ~人々の祈りが紡ぐ桑都物語~. <https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story088/>
- 株式会社リクルート. (2024). SUUMO住みたい街ランキング2024 首都圏版. https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/assets/20240228_housing_01.pdf
- 「桑都物語」推進協議会. (2024). 令和6年度第1回日本遺産「桑都物語」推進協議会総会. 1-13.